

■現行計画における施策体系

分野	分野別の目標	基本的な方向
2 ス ポ ー ツ	1 スポーツのきっかけづくり	(1) スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備
		(2) スポーツへ参加する機会の提供
	2 スポーツを楽しむ環境づくり	(1) スポーツ施設の整備・充実
		(2) 既存施設等の利活用
		(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供
		(4) スポーツを通じた地域交流の活性化
	3 スポーツ観戦の魅力向上	(1) プロスポーツ等団体との連携・協力
		(2) スポーツ観戦機会の拡充
	4 スポーツ指導者の育成	(1) スポーツ指導者等の育成と確保
		(2) スポーツ指導者の技術等の強化

■現行計画における目標ごとの課題認識

分野別目標1 スポーツのきっかけづくり

- 課題① 分かりやすい情報提供、相談・問い合わせ対応
- 課題② スポーツをはじめのきっかけとなる情報発信・機会提供

分野別目標2 スポーツを楽しむ環境づくり

- 課題① 区立施設の使いやすさの向上、区内資源の有効活用
- 課題② 対象者の支援や配慮の有無、ニーズに応えた事業実施
- 課題③ レベルアップを目指す区民に対する支援の仕組みづくり
- 課題④ スポーツ団体の活動の活性化のための連携強化

分野別目標3 スポーツ観戦の魅力向上

- 課題① プロスポーツ等団体が連携・協力し、スポーツ振興を図る
- 課題② プロ・アマを問わず、試合の観戦・練習の見学ができる仕組みづくり

分野別目標4 スポーツ指導者の育成

- 課題① 若手指導者や区の人的資源を活用した指導者の確保
- 課題② スポーツ人口のすそ野を広げるため、指導力を強化する

■分科会・アンケート・社会動向に見られる課題認識

1. 区民目線の課題(第1回分科会での意見より)

- 〈する〉 ○イベントは多いが、似たようなイベントが多く、偏りがある
○スポーツ施設の稼働率が高すぎるため、施設利用がしにくい
○スポーツを行う場所が少なく(オープンスペースがない・公園が管理されすぎている)、施設の活用が求められる
○子どもの体力低下・子どもがのびのびできる環境がない
○学校開放については管理責任を明確にしにくく、思いきったことができない
- 〈みる〉 ○区にスポーツチームはあるが、観戦料が高い
- 〈支える〉 ○指導員の高齢化・固定化が進んでおり、若者がなろうとしない

2. アンケートから得られる課題

- 〈する〉 ○区民のスポーツ実施率が高くはない
○若い女性(とくに20歳代)の実施頻度が低い
○スポーツの苦手意識が取組みに連動している
○事業・イベントの充実、ハード整備が求められている
- 〈みる〉 ○生で観戦する、誰かとともに観戦する人が少ない
- 〈支える〉 ○スポーツを支える活動をしたことのある人が少ない
○活動機会、情報提供、コーディネータの充実等の施策が求められている

3. 国・東京都の計画から導かれる課題

- 〈国〉 ○子どものスポーツ機会の充実
○ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
○住民が主体的に参加する地域スポーツ環境の整備
○国際競技力の向上に向けた人材養成・環境整備
○オリンピック・パラリンピックとの連動
○スポーツ界の透明性・公平性・公正性の向上
○トップスポーツと地域スポーツの連携
- 〈東京都〉 ○スポーツに触れて、楽しむ機会の創出
○スポーツをしたくなるまちづくり
○ライフステージに応じたスポーツ活動の支援
○世界を目指すアスリートの育成
○国際交流、観光、都市づくり政策等との連動
○障害者スポーツの推進
(「東京都障害者スポーツ振興計画」)

4. 社会動向から導かれる課題

- 超高齢者社会における健康増進・生きがいづくり
- 子どもたちの意欲・体力の低下に対する対応
- 単身世帯の増加・無縁社会における地域コミュニティの活性化

5. オリンピック・パラリンピックについての課題

- オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成等
- オリンピック・パラリンピック終了後のレガシーに向けた取組

■課題のまとめ

- ◎より多くの人が、頻繁にスポーツを楽しむようになる
- ◎既存施設を活用したスポーツ環境の確保
- ◎土地に関わらない、文京区らしいスポーツ(種目)の開発
- ◎子どもがスポーツ・運動に取り組めるようになる
- ◎スポーツ観戦を気軽にできるきっかけ・仕組みをつくる
- ◎指導員・サポーターの門戸・関わり方を広げる
- ◎する・観る・支える全般にわたる分かりやすい情報発信
- ◎障害者スポーツの環境・機会を整える